

荒浜地区の津波被災農地に賑わいを取り戻そう！「ひまわりまつり」開催

【農業振興部：仙台農業改良普及センター】

仙台農業改良普及センターでは、仙台市東部地区で農業の復興に取り組む組織経営体の支援を行っています。仙台市の荒浜地区では、復興に取り組む荒浜実行組合同、JA仙台、行政機関などの関係団体がメンバーとなり「荒浜プロジェクト」を立ち上げ、農業とコミュニティの再生を目的に活動しています。

この活動の一環として、「荒浜プロジェクト」に参画する学生ボランティア団体 ReRoots (リルーツ) 主催によるイベント「ひまわりまつり」が8月9日、荒浜小学校近隣の畑を会場に開催されました。

2日間の予定だった同イベントは、あいにくの天候により1日みの開催となりましたが、来場者の皆さんは、再生された荒浜地区の畑に咲き誇る大輪のひまわりの花を見て楽しんでいました。会場では、ひまわりの写生大会、金魚すくいや宝探しのほか、荒浜地区で収穫されたトウモロコシや玉ネギなどの産直野菜の販売が行われました。また、この地区でなじみの深い精進料理「に」（油揚げを醤油味で煮たもの）に使われていた「海野豆腐店」の味を再現した特別限定生産の「油揚げ」や、JA仙台が商品開発した地元産大豆を使ったお菓子「ソイコロ」も販売され、大変好評でした。

地域の魅力を発信するイベントとして、おととしから始まったこの「ひまわりまつり」は、来年も開催される予定です。荒浜の新たな夏の風物詩として定着し、一日も早く荒浜地区のにぎわいを取り戻すことが期待されます。



「ひまわりまつり」会場の様子

世界に誇る松島湾の絶景、「松島“湾”ダーランド」でPR

【地方振興部】

8月15日、16日の2日間、松島町で「松島流灯会(りゅうとうえ)海の盆」が開催されました。流灯会は、東日本大震災後、大規模なイベント開催が難しい中で「大人も子供も自然に笑顔になるような、小規模でも松島ならではの情緒ある夏祭りを開催しよう」との思いから始められ、今年で4回目を迎えるイベントです。

今年も、流し灯笼や盆踊り、供養花火の打ち上げなど、供養の気持ちを大事にしながりにぎやかさもあふれる霊場松島ならではの祭りを多くの来場者が楽しみました。



にぎやかな盆踊り

【次のページへ続く】



“湾” Dairland PR コーナー

同会場では「松島“湾” Dairland」として、松島町、塩竈市、多賀城市、東松島市、利府町、七ヶ浜町の松島湾岸 6 市町のパンフレット、ポスターを展示するコーナーが設置されました。これは、松島湾岸の市町が連携して美しい景観などを PR していかうとする「再発見！松島“湾” Dairland 構想」の取り組みの一環として行われたものです。

松島町は、仙台地域の一大観光地としてのイメージが強いですが、本年 1 月に松島湾が「世界で最も美しい湾クラブ」(※)に加盟したことを受け、松島町だけにとどまらない湾岸の市町での観光振興の取り組みが始まっています。皆さんもぜひ松島湾一帯をめぐり、世界に誇る美しい景観をお楽しみください。

※ 湾を活用した観光振興などを目的とする、国際的な環境保全団体。

フランスのモンサンミシエル湾やベトナムのハロン湾など、世界 30 の国と地域の 41 の湾が加盟。

和牛のオリンピック出場を目指せ！「第 16 回あさひな農協繁殖牛共進会」

【畜産振興部：仙台家畜保健衛生所】

7 月 31 日、美里町のみやぎ総合家畜市場で「第 16 回あさひな農協繁殖牛共進会」が開催されました。共進会は、「仙台牛」などで知られる黒毛和牛の繁殖用雌牛が集まり、体形や資質の優劣を競い合うもので、生産者の日頃の改良の成果や飼育技術を披露する場です。

当日は 30 度を超える猛暑で牛たちには厳しい天候でしたが、月齢に応じた 4 つの部門にあさひな農協管内の生産者が飼育するえりすぐりの計 41 頭が出品されました。出品牛は発育が良く、ボリューム感のある牛が多く見られ、優劣つけがたい審査となりましたが、各部門から最優秀賞 1 頭と優秀賞 2 頭が選出されました。

3 年後の平成 29 年には、和牛のオリンピックと称される「全国和牛能力共進会宮城大会」が仙台市で開催されます。今回の共進会は、あさひな和牛改良組合石川組合長の「本日を足がかりに、“あさひな”からも代表牛を出品しましょう！」の挨拶でしめくられ、3 年後に向けて生産者の皆さんの和牛改良への意欲がますます高まりました。

【最優秀賞受賞者】

第 1 区（未経産 12～16 カ月齢）※

大郷町 高橋一さん（はなか号）

第 2 区（未経産 17～23 カ月齢）

大郷町 みなとファーム（みなと 95 号）

第 3 区（経産 5 歳未満）

富谷町 遠藤昭さん（ひなこ号）

第 4 区（経産 5 歳以上）

大郷町 石田幸悦さん（やよい号）



審査風景

※ 未経産：まだ出産を経験していないこと

※ 経産：出産を経験していること

「迷子にならない」法人経営を考える農業経営実践展開講座を開催！

【農業振興部：亘理農業改良普及センター】

被災地域の農業復興のため、新たに設立された農業法人は設立後1年が経過し、それぞれの特徴と課題が浮かび上がってきています。

法人経営の継続的な発展を図るため、8月8日、亘理農業改良普及センター(以下、「亘理普及センター」)主催、公益財団法人みやぎ産業振興機構及び管内各市町担い手育成総合支援協議会の共催により「農業経営実践展開講座」を開催しました。

講座には中小企業診断士でもある株式会社エスエムティ代表取締役の小島壮司氏を講師に迎え、「目標設定と経営改善～迷子にならないための道標(みちしるべ)～」と題して、経営理念、経営方針、経営目標づくりから自己の経営の検証方法まで学習しました。

講師の小島氏からは、「迷ったら原点に帰ること、そのために組織の経営理念を作り、立ち位置をしっかりとすること」と、法人経営にはやりがいがあることが重要であることが話されました。

意見交換では出席者から、「役員同士の間関係(年上など)で言いづらいこともある」「Plan, Do, Check, ActionのCがなかなかできない」といった意見が出され、小島氏からは「役割分担をしっかりと決めましょう」「現場で忙しい中で経営のための時間もぜひつくってください」といったアドバイスがありました。

出席者の中には構成員全員で出席した法人もあり、日頃考えていた課題の解決策を探ろうという意欲が感じられました。

亘理普及センターでは今後も、地域農業を担う経営体の状況に合わせた育成支援を続けていきます。



法人経営に必要なことを学び
納得する受講者たち

東日本大震災による山地被災箇所の復旧状況

【林業振興部】

東日本大震災の際、内陸の森林地帯では、未曾有の被害を受けた沿岸部に比べ目立ちませんでしたが、強烈な地震動による山腹崩壊や落石などの被害が多くありました。

これら被災箇所については、住宅や道路に近接しているなど重要度の高い箇所から順番に治山事業による対策工に着手してきており、すでに完了した箇所もあります。

平成26年8月末時点では仙台市青葉区内の2箇所で工事中であり、この秋には完了する見込みとなっています。

地震の被害に大雨が追い打ちを与えるケースも多いことから、林業振興部では引き続き荒廃した森林の復旧に努めていきます。



土石とともに巨大な石が落下し下方の林道が通行できなくなり、一時住宅を孤立させた箇所。金網により落石の落下エネルギーを減衰させる工法を採用。(仙台市青葉区熊ヶ根地内)



急斜面上部が大規模に崩壊し下方にあった森林をなぎ倒した箇所。鋼製の土留めにより崩れた土砂を抑えて安定させます。(仙台市青葉区新川地内。施工中)

亘理町「わたりふるさと夏の夕べ」開催～震災後初の花火打ち上げ～

【地方振興部】

東日本大震災で大きな被害を受けた亘理町荒浜地区で8月15日、「わたりふるさと夏の夕べ」が開催され、4年ぶりに花火の打ち上げが行われました。

同地区では元々、花火や山車パレード、出店などを行う夏祭りを開催していましたが、東日本大震災後は従来の夏祭りを休止し、震災で亡くなられた方の鎮魂や平和への願いを込めて、法要と灯籠流しのみを続けてきました。今年は、住民の方々から花火復活を望む声が多かったこと、また震災から3年が過ぎ町の復興状況も順調に進んでいることから、一つの節目として大震災後初めてとなる花火を打ち上げることとなりました。会場は色とりどりの灯籠1,300個と手作りのランタン1,500個、そして1,500発の花火に彩られ、たくさんの住民の方が光の競演を楽しみました。

今回の花火復活だけでなく、今年秋には大震災の影響により仮設店舗で営業をしていた産直施設の復活や、「わたり温泉 鳥の海」の日帰り入浴再開、さらに冬には荒浜にぎわい回廊商店街の開業を予定しており、復興に向けて確かな歩みを進めています。

亘理町では、これから秋に向けて名物「はらこめし」のシーズンでもあります。皆さんもぜひ復興に向かう亘理町で旬の美味を堪能してください。



4年ぶりに打ち上げられた花火

マラウイ共和国との技術交流！～仙台地域の沿岸被災地で復興状況を研修～

【農業農村整備部】



一部完成した巨大区画農地の説明を受ける様子

宮城県はJICA（国際協力機構）と連携し、「みやぎ国際協力隊プロジェクト」としてアフリカ・マラウイ共和国へ平成22年度から農業水利分野の技術協力を行っています。

7月22日からの3週間は、技術協力の一環としてマラウイ共和国のかんがい事務所の職員を研修員として本県に招へいし現地研修などが行われました。仙台地方振興事務所管内においても7月25日、農業土木技術を学ぶ現地研修を行いました。

当日は、東日本大震災の津波や地震で被害を受けた農業用排水機場や農地海岸の復旧工事現場、復興に向けて農地の巨大区画化を行っている工事現場において研修を実施しました。

現場では、国や県から復旧状況や施設の構成について説明を行ったところ、研修員の皆さんは、震災被害の大きさに驚くとともに機械化により効率化を図る本県のかんがいシステムなど本国と異なる点を比較しながら興味深く聞き入っていました。

日本とマラウイ共和国は、気候・風土・経済状況等様々な点で異なりますが、研修員の皆さんが本県における技術協力を通じて農業土木技術を学ぶことにより、本国でその成果を活かすとともに、宮城県、ひいては日本とマラウイ共和国との交流の一助となることを期待しています。

★ 読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております！
問合せ先：宮城県仙台地方振興事務所地方振興部(担当：山本)
TEL:022-275-9140 FAX:022-275-0296 (E-Mail) sdsinbk2@pref.miyagi.jp
(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sdsgsin-e/>
※次号は10月下旬発行予定です。